

「みやぎ園試VB1号」の施肥管理技術

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

平成12年3月に品種登録された本県オリジナルソラマメ品種「みやぎ園試VB1号」は鮮やかな緑色で良食味であることから、有利販売が期待でき「あまえくぼ」の愛称でPR活動が展開されている。「みやぎ園試VB1号」は「打越一寸」と比較してやや開花が遅く、また上位節まで結実するといった特徴があるが、これまでは「打越一寸」と同様の栽培管理を行われてきた。そこで、「みやぎ園試VB1号」に適した肥培管理方法について検討を行ったところ、知見が得られたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 基肥の施肥量は窒素成分で10kg/10a程度とし、緩効性肥料を用いる(表1, 2, 3)。
- 2) 追肥は速効性の肥料を用いて3回に分けて行い、1回あたりの施肥量は3.3~5.0kgとする(追肥の合計は窒素成分として10~15kg/10a)とする(表1, 2, 3)。
- 3) 追肥時期は1回目は被覆除去直後、2回目は開花初め、3回目は着莢時期~莢肥大期とする。
- 4) 「みやぎ園試VB1号」は「打越一寸」よりも晩生なので、着莢~莢肥大期にも追肥を行うと増収する(表2)。

3 利活用の留意点

- 1) 播種は直播きは避け、7.5cm程度の大きさのポットに播種し、第1本葉(初生葉2枚+本葉1枚)展開まで育苗した苗を定植する。
- 2) L莢率を高めるために分枝数は6~8本をめやすに制限する。
- 3) ベタがけ被覆の除去時期は3月末~4月上旬とする。
- 4) 排水不良の圃場では暗きよや明きよなどの排水環境を整えたり、畝を高めにするなどの対策をとる。

(問い合わせ先: 農業・園芸総合研究所 園芸栽培部 電話022-383-8132)

4 背景となった主要な試験研究

1) 「みやぎ園試VB1号」の採種技術の改良と栽培技術の確立（平成16年度～17年度）

研究課題名及び研究期間

2) 参考データ

表1 試験の構成

試験区	基肥	施肥量 (N成分)	追肥			合計施肥量 (N成分)	
			1回目	2回目	3回目		
1 対照区	CDU S555	10kg	S604	5kg	5kg	—	20kg
2 標準区	コーティングソラマメ	10kg	S604	5kg	5kg	—	20kg
3 基肥半量区	CDU S555	5kg	S604	5kg	5kg	—	15kg
4 追肥3回 多量区	CDU S555	10kg	S604	5kg	5kg	5kg	25kg
5 追肥3回 同量区	CDU S555	10kg	S604	3.3kg	3.3kg	3.3kg	20kg

注1) 追肥時期: 1回目(被覆除去直後), 2回目(開花初め), 3回目(着実～実肥大期)

注2) 施肥量は10a当たり

表2 収量調査結果

試験区	品種	規格*別収量(kg/a)				総収量 (kg/a)
		L	M	S	SS	
1 対照区	みやぎ園試VB1号	54	73	52	18	196
2 標準区		29	67	56	12	164
3 基肥半量区		62	75	47	15	199
4 追肥3回 多量区		56	96	83	15	249
5 追肥3回 同量区		53	91	60	22	226
6 対照区	打越一寸	88	88	46	4	225

*: L(40g以上), M(30g以上40グラム未満), S(20g以上30グラム未満), SS(20グラム未満)

商品実L, M, Sで, 収穫は2006年6月15日, 22日, 29日に行った。

表3 規格別の割合

試験区	品種	L実率(%)	M実率(%)	S実率(%)	商品率(%)
1 対照区	みやぎ園試VB1号	27	37	26	91
2 標準区		18	41	34	93
3 基肥半量区		31	38	24	92
4 追肥3回 多量区		22	39	33	94
5 追肥3回 同量区		23	40	27	90
6 対照区	打越一寸	39	39	21	98

耕種概要

播種 平成17年10月24日(7.5cm黒ポリポット使用)
 定植 平成17年11月14日
 栽植条件 株間35cm、条間120cm、1条植え、栽植密度238株/a
 土壌水分 pF1.8
 分枝数 6～8本
 肥料名 基肥 CDU燐加安S555 コーティングソラマメ
 追肥 燐硝安加里S604

3) 発表論文等 なし